

2019 年度日本天文学会天文教育普及賞

【受賞団体】 学校法人 駿台学園

駿台学園中学校・高等学校 東京都北区王子

【活動名】 駿台天文講座を中心とした長期にわたる天文学の教育普及

学校法人駿台学園は、1932年、東京都千代田区の神田駿河台で創立され、その後1963年に、東京都北区王子に駿台学園中学校・高等学校を移設開校した。以来、地域に開かれた教育活動を推進してきた。

1966年に開講された「駿台天文講座」は、学園の特色ある教育活動として、一般市民に開かれた無料の講座である。開講以来ほぼ毎月開催され、53年を経た2019年12月には645回を数えた。講師は現職の天文学者を中心としつつも、天文アマチュア、研究者、天文教育者など各界の人々を招き、幅広い話題を提供してきた。100回、200回、…、500回、20周年、40周年、など記念の講座では、村山定男氏（国立科学博物館理化学部長）・マニュエル・パイク博士（国際天文学連合副会長）・小田 稔博士（理化学研究所理事長）・小平 桂一博士（国立天文台長）・尾崎 洋二博士（日本天文学会会長）・小柴 昌俊博士（ノーベル物理学賞受賞・東京大学特別栄誉教授）などが登壇され、パネルディスカッションなども開かれた。（括弧内は講演当時の肩書）。

開講当初の時期は、一般の人が第一線の天文学者の講演を聴く機会も非常に少なく、社会と天文学者の貴重なふれあいの場となった。受講者数は、開講以来53年間の累計延べ4万人近くにもなっている。「駿台天文講座」では、1978年から年間12回のうち11回以上を受講した人に精励賞を出しているが、40年間で945名がこの賞を受賞されている。うち、受賞20回を超える人が3名もおり、これらの数字は、この講座がいかに人々に親しまれているかを物語っている。

月に1回の上記月例天文講座（晴天時には天体観望会も実施）のほかに、北軽井沢林間施設と75cm望遠鏡を利用した「夏季天文講座」をはじめとした講座や、講習会、ものづくり講座なども実施されている。さらに2010年からは、子供向けの「ジュニア天文講座」を新たに開講し、天文分野の裾野を広げる活動にも寄与している。

以上駿台学園は半世紀を超える長期にわたり、多くの人を引きつける講座を中心とした多彩な活動で天文学の広報普及を実施してきており、その功績を称え、2019年度日本天文学会天文教育普及賞を授与する。